

製品名: GluR- δ 2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab11497**

研究使用のみ

概要

| | |
|--------|--|
| 説明 | ウサギポリクローナル抗体 |
| 宿主 | うさぎ |
| 応用 | WB, ICC/IF, ELISA |
| 反応性 | ヒト、マウス、ラット |
| 標識 | 非共役 |
| 修飾 | 未修正 |
| アイソタイプ | IgG |
| クローン性 | ポリクローナル |
| 形態 | 液体 |
| 濃度 | 1mg/ml |
| 保存 | アリコートし、 -20°C で保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送 | 氷袋 |
| バッファー | 50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。 |
| 精製 | アフィニティー精製 |

応用

| | |
|------|---|
| 希釈倍率 | WB 1:500-1:2000, ICC/IF 1:200-1:1000, ELISA 1:10000-1:20000 |
| 分子量 | 113kDa |

抗原情報

| | |
|--------------|---|
| 遺伝子名 | GRID2 |
| 別名 | GRID2; GLURD2; Glutamate receptor delta-2 subunit; GluR delta-2 subunit |
| 遺伝子 ID | 2895.0 |
| SwissProt ID | O43424 |
| 免疫原 | 抗血清はヒト GRID2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 831-880 |

背景

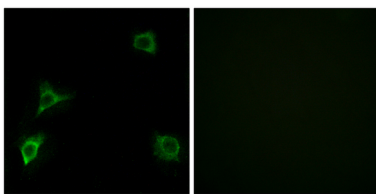
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、哺乳類の脳で主要な興奮性神経伝達物質受容体であるイオンチャンネル型グルタミン酸受容体ファミリーのメンバーです。コードされるタンパク質は、小脳プルキンエ細胞で選択的に発現する複数回膜貫通型タンパク

質です。「lurcher」と呼ばれる表現型に関連するマウス相同遺伝子の点変異は、ヘテロ接合状態では、出生後の発達中に小脳プルキンエ細胞の選択的かつ細胞自律的なアポトーシスに起因する運動失調を引き起こします。この変異のホモ接合型マウスは、胚発生後期中脳および後脳ニューロンが大量に失われるため、生後まもなく死亡します。このタンパク質は、平行線維とプルキンエ細胞間のシナプス組織化にも関与しています。選択的スプライシングにより、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが生成されます。このドメインにおける変異: PDZ 結合モチーフは GOPC との相互作用を媒介する。機能: グルタミン酸受容体。L-グルタミン酸は中枢神経系の多くのシナプスにおいて興奮性神経伝達物質として作用する。グルタミン酸のシナプス後作用は、選択的アゴニストに応じて命名された様々な受容体によって媒介される。類似性: グルタミン酸依存性イオンチャネル (TC 1.A.10) ファミリーに属する。サブユニット: AIP1、AP4M1、BECN1、GOPC、GRID2IP、SHANK1、および SHANK2 と相互作用する。

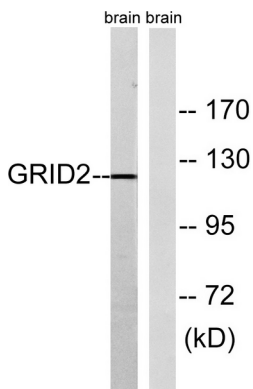
研究分野

神経活性リガンド-受容体相互作用;長期うつ病;

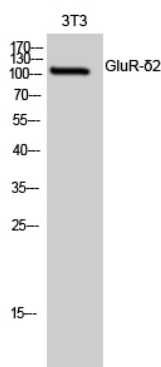
画像データ



GRID2 抗体を用いた HUVEC 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした状態。



GRID2 抗体を用いたマウス脳ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロックされている。



GluR- δ 2 ポリクローナル抗体を用いた 3T3 細胞のウェスタンブロット解析